

大学生生活の思い出を心の糧に

学 長 竹葉 剛

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。皆さんが、本学で、講義や演習、実験や実習、そして卒業（修士）論文の作成に向けてがんばったことは、人間の基本的な能力として、皆さんの中に残っています。自信をもって、社会での新しい課題に挑戦してください。そして、多くの経験を積んで、周りから信頼される社会人となってください。

本学は、その前身の設立から数えますと、今年度で112年目となり、現在約2万人の先輩が社会で活躍しています。一昨年の11月、本学の伝統を実感した出来事がありました。それは、本学文学部の前身である京都府立女子専門学校を1940年（昭和15年）に卒業された方から、自分の書いた卒業論文が図書館に保存されているか、という問い合わせを受けたことです。早速図書館に問い合わせたところ、確かにある、ということでした。そのことをご本人に知らせたところ、昨年の12月3日、本学に来ていただきました。現在89歳だというその方は、非常に元気で、卒業して68年間、心の底にあった願い事が叶って非常にうれしい、とおっしゃっていました。1940年というと太平洋戦争の始まる前の年です。その方は、課外活動、学芸会、日曜日の教授とのハイキングなど、今でもよく覚えている、戦時下であったが恵まれた学生生活であった、ということでした。お話を聞いていて、その方は確かに本学の卒業生だと強く感じました。誠実で、パワフルで、そして非常に心豊かな方でした。

その方の話に感動したのは、学生生活というのは、それだけ永く人の心に残るものか、という点です。皆さんは、大学4年間、あるいは修士の2年間、この狭くて古い学舎で大学生生活を過ごしたわけですが、そのことは皆さんのこれからの人生において、必ずや心の糧になるものと思います。皆さんの大学生生活の思い出を大切に、これからの人生を切り開いていただきたいと思います。

皆さんが出て行く社会は、社会の仕組みや価値観など、今後めまぐるしく変わっていくと予想されます。自分を何かの枠に入れて縮んでしまうのではなく、社会環境の変化に合わせて、自分をのびのびと成長させてください。皆さんの中には、まだ誰も知らない大きな能力と可能性が隠されています。それをじっくりと育ててください。

ただし、あまり私生活主義に陥るのはよくありません。現在の日本社会には、少子化、様々な家族問題、ワーキングプア・格差問題、年金や医療費の問題、近隣諸国や欧米との関係、食の安心安全の問題、環境問題など、多くの課題があります。これらの課題をどうすべきか、社会の一員として関心をもち、その解決の方向について考える責務が皆さんにはあります。

また、健康には特に気を配ってください。バランスのとれた食事と生活のリズムが大切です。十分な睡眠は、記憶を整理し、免疫力を回復し、心身の活力の源となります。毎日ぐっすり眠ることを大切にしてください。そして、もししんどくなったら、この府立大学を訪ねてきてください。

目次

卒業生に贈ることば	1	退職教員からのメッセージ	13
部局長のことば	2	後援会理事長・同窓会長からのメッセージ	16
担任・卒業生のことば		西安交換教員・派遣院生からのメッセージ	17
文学部・文学研究科	3	桜楓講座(春の部)の参加者募集	17
福祉社会学部・福祉社会学研究科	6	話題の研究：京野菜のがん予防成分を研究	18
人間環境学部・人間環境学研究科	7	府大教員の出版物紹介	18
農学部・農学研究科	10	新生「京都府立大学」がスタートします	19
博士学位取得者からのメッセージ	13	博士学位取得者一覧、イベント情報	20

部局長のことは

ノブレス・オブリージュの精神で 社会のリーダーに

教務部長 久保 康之

卒業生の皆様、おめでとうございます。新しい人生の旅立ちにあたりお祝いの言葉を申し上げます。昨秋、研究で親しくお付き合いをしている国立ソウル大学のLee博士を本学に迎えて研究交流の機会を持ちました。彼はゲノム研究の第一人者ですが、研究だけでなく教育プログラムの開発や韓国における学会の国際的なリーダーシップの確立など精力的に取り組んでいます。その彼と懇談したとき、彼は自分の行動を支えているのはノブレス・オブリージュの精神だと語りました。意味するところは「自発的な無私の行動」ということです。その言葉を聞いたとき、なるほどと胸中に響く部分がありました。皆さんは社会に出て、あらゆるところで活躍することになるでしょう。責任ある立場になり、ときに困難にぶつかるときもあるでしょう。それを乗り越える真の底力は内発的なものであるように思います。府大で培った力を社会で存分に発揮されることを心から期待いたします。

弥生、3月、旅立ちのとき

学生部長 宮嶋 邦明

卒業生のみなさん、いよいよ旅立ちのときですね。加茂川、植物園、そして比叡をのぞむ抜群の環境のもとで、みなさんの大学生活はいかがだったでしょうか。十分に満喫したという人も、もう少しいたかったという人も、いよいよ今日でお別れです。縁と土と、そして心やさしい人々に囲まれての大学生活は、みなさん方にとって、何ものにもかえがたい財産になったと確信します。旅立ちに際し、講義の中での1節を贈ります。「私は私の人生を生きる、あなたはあなたの人生を生きる、同じ人生を生きるもの同士の間で連帯と共感」を何よりも大切にしてほしいと思います。今日の競争社会は、無防備に生きると、他者との連帯に楔を打ち込みます。「孤高」の人生ではなく、同じ人生を切り開くもの同士としての共感と連帯、そして、堂々と他者とともに生きる世界を広げてほしいと思います。みなさん方の前途に幸多かれと祈ります。

笑い話をひとつ

附属図書館長 上田 純一

ある男がレストランに入り、ステーキを注文した。メニューには100ドルと200ドルのステーキがあったが、お金のなかった男は100ドルのものを注文し、固い肉を食べ終えた。だが、どうしても200ドルのステーキが気になって仕方がない。翌日、再び同じレストランへ行くと今度は200ドルの方を注文し、期待しながら一口食べた。ところが、肉は昨日と全く同じ固い肉のままである。不思議に思った男は支配人を呼び止め尋ねた。

「100ドルのステーキと200ドルのステーキはどう違うんですか」

支配人は満面の笑顔で答えた。

「200ドルのステーキには特別によく切れるナイフがついております」

ご卒業おめでとうございます。皆さん方は今日までの大学生活において、各々「特別によく切れるナイフ」を手に入れられたことだと思います。明日からは、実践の場で、十分にそれらを活用していただきたいと思います。

卒業おめでとうございます。

事務局長 山崎 達雄

卒業おめでとうございます。府立大学で学ばれたことを基礎に、大きくても小さくてもいいですから、社会人として目標を定めて歩んでください。

社会人としての生活は、少し窮屈かもしれませんが、人との付き合いなど、自分の意に反することもあるかもしれません。悩んだりすることもあると思います。それも、社会の中で成長する一つの段階と考えて、何事も前向きに取り組んでください。

苦しい時は、自分が何かに挑戦していることはなかなか分からないものです。そんな時、少し休んで、周りを見渡し、いま来た道を振り返るのも一つの方法です。また、ふらりと母校を訪問して、恩師や先輩と話をするのも良いと思います。何か得るものがあると思います。母校とはそんなものです。

最後に、何事も学ぶ心と、自分を楽しむ遊び心も忘れず。卒業生の皆さんから元気な便りが届くことを待っています。

文学部・文学研究科

狡兔の三窟

文学部長・文学研究科長 渡辺 信一郎

卒業・修了おめでとうございます。『戦国策』の中に「狡兔の三窟」という話が出てきます。賢いウサギは、三つの巣穴を造っておいて、一つが使用できなくなっても、他の二つを使って安全に生きていく、という寓話です。多くの卒業生は、社会に巣立っていくことと思います。現代の狡兔は、社会に出ると家庭・地域社会・職場の三つの場所で責任を果たすことが要求されます。よき家庭人であり、またよき隣人であり、かつよき職業人であることは、大変難しい課題です。一つの巣穴がダメでも、あとの二つでなんとか生きていけるという甘えは、許されないのです。ともに頑張りましょう。

君たち若者がいる。

文学科国文学・中国文学専攻担任 赤瀬 信吾

1971年が大学受験の年であった。当日、東大路には機動隊が、一条通りにはヘルメットの学生たちが群れていた。学問をしようと上洛したはずなのに、なんという環境に自分を置いてしまったのかと悔やんだ。一回生の時、授業らしい授業はなかった。下宿の隣室に、フランス文学を専攻する大学院生がいらっちゃって、学問にふれることができた。二回生になると、学部の初歩的な講義に参加することが許された。本物の学問にふれることの喜びがあった。

いまの君たちが、比較して幸福だとはいわない。わたくしと同じように混乱し、学問への疑問を持った時期も少なくなかったと想像する。けれど、頑張り！あなたたちは若者なのだ。これから世界を築いてゆけるのは、君たち若者なのだ。だから、頑張り！祝福をこめて、君たちに希望を託する。

府大で学べて良かった。

文学科国文学・中国文学専攻 S. I.

卒業の時を迎え、いよいよこの京都府立大学から離れなくてはならなくなりました。名残惜しい気持ちでいっぱいです。

府大では、学ぶことの本当の楽しさを初めて知ることができたと思います。先生方は熱意のこもった、それでいて優しく丁寧なご指導をしてくださいました。

また、仲間の大切さをいつも感じることができました。楽しかったことはもちろん、苦しいときに助けられることも多くありました。ここで4年間の大学生を送ることができて本当に良かったと思います。周囲の環境にも恵まれ、穏やかで優しい空気に包まれている府大そのものも、大好きでした。

この春から社会に出ますが、新たな良き出会いに期待を膨らませながら、体当たりでぶつかっていきたいです。

最後になりましたが、先生方や友人をはじめ多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

おめでとう、ようこそ！

文学科西洋文学専攻担任 加藤 丈雄

「今の時代、成人は30才ぐらい」とは、僕が子供の頃から面倒見てくれた女医さんの言葉。大学卒業後あらたに文学を学びたいと考えていた頃のこと。放課後、サッカー一部の生徒を相手にボールを蹴りながら（それはそれで充実していたけれど）、将来の不安でいつも胃のあたりが痛かったことを思い出す。このお医者さんの息子も何か回り道をしていたはず。「これだけ複雑な社会なんやから、30までは試行錯誤してもいい。でも30越してまだふらふらはダメよ」そう言われて、もう一度今度は本気で勉強しようという気持ちになった。

——大学卒業そして社会人。おめでとう。でもこれからは、すべて自己決定。それは自由で素晴らしく、またとてもしんどいこと。何かあったら、せいぜい悩んで下さい。これからの前途にわくわくしている人も、目下不安でいっぱいの人も。

大学時代

文学科西洋文学専攻 M. K.

迷う——これは文学に欠かせない要素である。深く文学をひもとくためには、ああでもない、こうでもないと思い、悩み、熟慮する必要がある。そうして最終的に何とか自分の意見をまとめるのだが、それが必ずしも絶対的正答だとは言えない。答えは無数で、あるようでないものなのだから。

こうした文学研究の一連の流れは、大学時代、い

くつか人生の岐路に遭遇した私にとって、とても得るところの多いものだった。特に、卒業後歩む道を決断する際、生かされたと思う。

日々大いに楽しんだり、悩んだりして、あっという間に過ぎてしまった私の大学時代。阿久悠作詞「青春時代」のように、将来きっと愛おしく、ほのぼのと思うことだろう。

卒業論文は鑑なり

史学科担任 菱田 哲郎

卒業おめでとうございます。最後の一がんばりであった卒業論文執筆の日々は、その提出日の解放感とともにずっと記憶に残ることと思います。府大で歴史を学んだことの集大成として、卒論に一途に取り組んだことは、これから先に巡り会う困難を乗り越える力の源となることでしょう。私は、縁あって自分の卒論テーマであった木津川市の高麗寺という遺跡にこの数年かかわっておりますが、そこを訪ねるたび、卒論を書いていた頃を思い出し、身が引き締まる思いがしています。何事も初心が肝心。社会人として一步を踏み出す皆さんも、また進学して学業を極めようとするみなさんも、時々卒論を読み返し、自身の大学時代を思い起こしてください。またお会いできる日を楽しみにしております。

史学科の仲間たちと築いたもの

史学科 M. M.

たとえ就活で「何で役に立たない歴史を？」なんて言われようが、私の選択は間違いではありません。誰が言い出したのか、私たちは史学科を「なかよ史学科」と呼んでいました。そこにいる仲間たちは、ともに試練を乗り越え成長し思い出を作り、これからの社会で様々な挑戦を行うための土台を築きました。後輩から学ぶこともありました。私たちが後輩の土台作りを手伝うことができたかはわかりませんが、全府大生がこの土台を築くことができたと思います。

最後になりましたが、学生生活を導いて下さった先生方・職員方に深く御礼申し上げます。そして、過去も未来も私の心の支えである家族、特に両親には心から「ありがとう」と伝えたいと思います。

幸福になる義務

国際文化学科担任 川瀬 貴也

皆さん、ご卒業おめでとうございます、と一言で済ませたいところですが、もうこれが最後のチャンスですから、「お説教」します。

最近の若い者は、という言葉は古代のパピルスにもあったと言われていますが、最近の若い者は「権利」ばかり言い募って、「義務」を果たさない、なんていう非難が今夜もどこかの酒場で繰り広げられているはず。僕も、今回は敢えてそれに便乗します。君たちは「不幸になる権利」ばかり行使して、「幸福になる義務」をまだ果たしていないと。これからの人生、是非この「義務」を果たす事に邁進していただきたいと思います。これが僕のはなむけの言葉です。

卒業のコトバ

国際文化学科 A. H.

京都府立大学に入学してからはや4年。あっという間に時は過ぎ、卒業を迎えます。私が学んだ国際文化学科は、様々な分野のいいとこどりができる学科でしたので、本当にいろいろなことを学ばせていただきました。来年からこの学科がなくなってしまうのは少し寂しい思いもしますが、また新しい形で新しい人達が学ぶのだと思うとそれはそれで楽しみです。学科やクラブの友達、先輩や後輩、先生方…この大学に入ってたくさんの人に出会い、そしてお世話になりました。府立大学は規模が小さい分、より濃い関係ができたのだと思います。そんな府立大学に感謝しつつ、大学で作ったたくさんの思い出を胸にこれからも頑張っってやっていきたいと思ひます。

「修士」とは

文学研究科国文学中国文学専攻担任 山崎 福之

博士前期課程修士の皆さん、おめでとうございます。皆さんはこれで、晴れて「文学修士」となりました。「文学士」から一歩進んだ学位であり、また称号でもあるものを手に入れたこととなります。

ただ、その「修士」というもの。おそらくは「修士」の意味として用いられる、その「修」の意義を改めて噛みしめて下さい。平安後期の辞書『類聚名義抄』を見ると、「修」には「ヲサム」ばかりではなく「ツクル ヲコナフ」の訓も載っています。これに基づいて、皆さんは「学を修めた」ことに満

足することなく、これまでに培った豊かな学識と経験を生かして、それぞれの進む分野で「学を修り（作り）、そして修う（行う）」ことに邁進して行ってほしいと思います。

得難い二年間

文学研究科国文学中国文学専攻 T. H.

京都で学びたい。この思いが募り、私は二年間の休職という一大決心をして、京都府立大学大学院に入学しました。十年ぶりの学生生活、より専門的な授業内容。分からないことばかりでついて行くのが精一杯の毎日でした。しかし日を重ねるごとに、学ぶことは面白いと強く実感しました。先生方は常に「なぜ」という疑問を寄せられます。これこそが学問を豊かで奥深いものとし、学ぶことの喜びを味わわせてくれるのだと知りました。これからも私を支える感動です。この4月から私はまた高校の教壇に立ちますが、先生方から頂いたこの感動を、今度は生徒たちに還元したいです。先生方、院生の皆さん、ありがとうございました。

Language as a Window into Human Nature

文学研究科英語英米文学専攻担任 菅山 謙正

博士前期課程修了おめでとう。昨今、communication の手段の変化とともに iconic な文字の使用が増えています。記述的な立場を取れば、ことばに誤用はないのですが、英語ばかりか日本語の使用についてもいろいろな問題が指摘されています。就職する人もさらに後期課程へ進学する人も、母国語、外国語を問わず、ことばへのこだわりを持って生活してください。冒頭の Stephen Pinker の言葉を待たなくても、ことばは人間の心を探る窓なのです。下のWittgensteinのことばを贈ります。
Die Grenzen meiner Sprache bedeuten die Grenzen meiner Welt.- Ludwig Wittgenstein, *Tractatus Logico-Philosophicus*, 5.6

展望

文学研究科英語英米文学専攻 T. N.

貴重な時間を大学で過ごせたこと、家族に感謝しています。

修士論文は、カポーティの『遠い声、遠い部屋』について書きました。作品を通じて英語、言葉、文化の面白さを感じました。一つの作品に込められた意味はあまりにも深く広く、文学という分野が軽んじられている昨今にして、文学の必要性を実感しました。この二年間で学んだことは、人生の基盤、もしくは指針となりました。

最後に、いつも親切に様々な事を教えてくださり、時には厳しい言葉で背中をおして下さいました先輩方、また、不慣れな私を導き、ご指導下さいました先生方、本当にありがとうございます。先生方、先輩方の貴重な言葉を忘れずに、日々の生活に責任をもって、これから進んでいきたいと思っています。

モラトリアム

文学研究科史学専攻担任 岡本 隆司

モラトリアムとは債務履行の一時猶予という経済用語、援用して社会に出る前の大学生の生態を表現する。この猶予期間をいかに活用するか。あえて歴史学に捧げたのがみなさんの生き方だった。

今は昔、歴史の大学院生といえば、もはやツブシがきかない、専門一途の人生しかなかった。いい歳をして社会的価値はゼロ、とても世間様に顔向けできない。慚愧しながらなお、気力を奮って学問に打ち込む。それができるのが、モラトリアムの特権であり、その成果で学界の評価も決まった。

今は大学院を出ても、学問とはちがう道がある。それでも、執行猶予が終わったら、その間に打ち込んだ成果が問われることにはちがいない。修士論文で苦しんだ分、大きな飛躍を期待したい。

多くを得た学生生活

文学研究科史学専攻 N. W.

学部4年、大学院2年。府大での6年は私の中で最も充実した日々だった。歴史が好きというだけで大学に入った時には、この中で考古学に出会い、大学院まで進み、まして修了するなんて思いもしなかった。

府大では本当に多くのことを学んだ。人と人とのつながりの大切さ、研究、調査の楽しさと大変さ、そして行動を起こさなければ何も身につかないけど、起こせばその分だけいつかは自分に返ってくるという当たり前のことを再認識した。「何もせずに後悔するなら、何かした後で後悔しろ。」の言葉を胸に

今まで突っ走ってきたけれど、これからの私にとって府大での経験が何よりも大きな財産であることは言うまでもないだろう。

国際文化専攻修士課程修了の皆様へ

文学研究科国際文化専攻担任 安達 敬子

修士課程修了おめでとうございます。皆さんが本専攻に進まれた年度に19年度からの募集停止が決まりました。周囲の空気が慌ただしい中、不安な思いを抱かざるを得ないこともあったことでしょう。静かな学習環境を保ってあげられず、一つの学科一つの専攻をなくすことによって成し遂げられる改革という荒き風から、学生を防ぐ蔭になれなかった教員の非力を、担任として深くお詫びいたします。それでも、皆さんはその厳しいなかで修士論文を完成させ、各々の本分を見事に全うされました。その成果を誇りとし共に語った友との学びの時間を胸に抱いて、後を振り返ることなく未来へと羽ばたいていかれますよう、心から祈念いたします。

国際で良かった！

文学研究科国際文化専攻 Y. N.

6年前、日本文化を学んだ上で他文化も学びたいと私は国際文化学科に入学、そして大学院に進学しました。国際文化専攻は在籍10人中7人が留学生。まさに国際文化だな、と学部入学時と同様にワクワクしたことを覚えています。丁寧に指導して下さる先生方の元、私は安心して勉強することが出来ました。言葉、習慣、料理…それぞれの文化が日常に溢れ、その違いや共通点を知り、私の思考と心は一層大きく柔軟になった気がします。

今、学部卒業後の進路を考えていた頃を振り返ります。道は色々あったでしょうが、国際の院で学べたことが何よりも私に力を与えてくれました。

国際で良かった！と言い切れる私はきっと幸せ者です。6年間本当にありがとう。

福祉社会学部・福祉社会学研究科

「福祉社会」を求めて！

福祉社会学部長・福祉社会学研究科長 小沢 修司

学部、大学院博士前期課程を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。

皆さんは、「福祉社会」って何？という問いかけで学習・研究を始められたのではないのでしょうか？卒業・修了を迎えた今、その答えは得られたのでしょうか？今一度、その問いに立ち戻っていただきたいと思います。私の思いはこうです。皆さんは広い視野で多面的な問題関心を持ち社会のこと人間のことを考えてこられました。卒論や修論で切り口とした学問分野は一つであったかもしれませんが、物事を狭く捉えはしませんでした。多様な個性が共生するなかで、みんなの幸せと自分の幸せに思いを馳せたのではないのでしょうか。多様性と共生、福祉と発達。ともに「福祉社会」づくりを進めましょう。

福祉社会の担い手に

福祉社会学科担任 中島 正雄

卒業おめでとうございます。

人生の節目ですので、学生生活を振り返ってみて

ください。みなさんは、いくつもの学問を学び、社会を見る目、人間を見る目を養いました。自分の考えを練り上げ、表現する力を鍛えました。福祉社会学部で学んだことをどうぞ誇りにしてください。

これからが本番です。身に付けたものを生かして、家庭や職場、地域、そして世界で、福祉社会を築いていってください。

4月から学部の名称は変わりますが、福祉マインドとアットホームな雰囲気は新学部を引き継ぎます。心を癒しに、ときどき帰ってきてください。「さよなら」は言いません。体に気を付けて、行ってらっしゃい。

出会いに感謝

福祉社会学科 T. O.

福祉での4年間は、私の人生の中で本当に充実したものでした。同期のみんな、クラブ員、先生方と過ごした日々が思い出されます。

入学当初は、自分の将来というものぼんやりと想像しながら、友達と語り合い、遊び、学んでき

ました。辛いことや悲しいこと、苦楽をともに共有・共感できた友達がいたことが大きな励みになりました。

福祉の「学際的」なカリキュラムの下、社会の「貧困」を治したいという思いから、将来は法律に携わる仕事をしたいと考えています。

4月からは勉強浪人ですが、「福祉マインド」と「信念」を忘れず努力していきたいと思います。

京都府立大学のみなさん、本当にありがとうございました。

挑戦と手紙

福祉社会学研究科担任 津崎 哲雄

Many Congratulations! この2年間の成果はみなさんの今後の生活に顕著に発現するであらう。僕の修了時（32年前）には、「より広い世界」を見なければ「この国の現実」は分析できぬと、海外修行を決意したことを想起こします。「より広い世界」での見聞・体験は、福祉実践にしろ、大学制度にしろ、市民生活にしろ、格別の刺激となりました。みなさんもぜひ一度外に出て、この「〇〇制『世間』社会」の在り様を認識する「ものさし」研修に挑戦してみてください。皆さん一人ひとりが府大から「世間」に

送り出される大切な「手紙」です。それらが「ふくし社会」創造につながるGood News となりますように！

修了にあたって

福祉社会学研究科 T. K.

先日、散髪屋で大学院に通っていることを理容師に話したところ、「勉強好きなんだね」と言われました。振り返ると、学部時代からあわせて6年間を府大で過ごしていることにあらためて気づきました。同じ6年間でも小学校時代よりひどく短く感じられます。その間に少しは成長しているのでしょうか。今はまだ、実感が湧きません。こうした学生・院生として過ごす時間の意味というのは、後になってはじめて理解できるのかもしれませんが。しかし修了という節目に、これまでの人生で四分の一を過ごした府大での時間を思い返してみ、次のステップへの自信につながる何かを見つけたいと思います。

人間環境学部・人間環境科学研究科

ふるさと

人間環境学部長・人間環境科学研究科長 下村 孝

NHK朝の連続ドラマ「ちりとてちん」の中に、娘を励ます母親・糸子のこんなセリフがありました。「あなたのふるさは小浜だけやない、年が明けたら一人前の落語家として生きていく、この大阪がふるさとなる。ふるさは生まれたとこだけやない。自分で作っていくもんやねんで」。皆さんの中でも、在学中にふるさと・府立大学が様々に作り上げられてきたのではないかと思います。府立大学での生活を終え、京都を離れる人もあれば京都に残る人もあるでしょう。いずれの皆さんも、思い立った時にはこのふるさに帰ってきて下さい。府立大学の自然と教職員、そして大学に残った友人達は、いつでも、皆さんを親しく迎えるつもりです。

プロになれ

食保健学科担任 木戸 康博

ご卒業おめでとうございます。

時代は大きく変わろうとしています。京都府立大

学においても、平成20年度から公立大学法人として新たな第一歩を踏み出そうとしています。卒業生の皆さんも、社会へ第一歩を踏み出す時が来ました。皆さんの前途洋々たる未来のために、本学において、学び、育んできた「夢」を実現するために、まさに第一歩を歩み始めたのです。それぞれの道の専門家であることを自覚し、常に情熱と誇りをもち、スキルアップを怠ることなく、専門家として活躍されることを祈念します。

生涯に出会える人には限りがあります。出会いを大切に思う心をもち、異文化が理解できる広い心と奉仕の心で、世界に向かって活躍されることを祈念致します。

メッセージ

食保健学科 S. W.

みなさん卒業おめでとうございます。4年間を振り返ってみて思い出深いのは府立医大での臨地実習と給食実習ですね。実習はしんどいことも多かったですが、患者さんに喜んでもらえたり、作った給食をおいしいと言ってもらえたりしたことはとてもうれ

しいことでした。のように食を通じて人と触れ合うことで、改めて食のすばらしさに気づくことができたように思います。ここで学んだことを活かし、食べることに関しては私たちの右に出るものはないぐらいの気持ちで、社会に羽ばたいていこうじゃありませんか。みなさんのご活躍を期待しています。4年間ありがとうございました。

知恵と力を蓄えて

環境デザイン学科住環境学専攻担任 竹山 清明

これからは年収百万円台の時代になると言われている。一つには経済のグローバリズムによる中国などとの低賃金競争、もう一つは新自由主義的政策による労働法制のすさまじい改悪、を原因とする。現在の無茶苦茶な状況は国民全体の災厄であり、近い将来には抜本的な改善が実現せざるをえないであろうと思う。

しかし当面は、自分たちで身を護らなければならない。卒業生の皆さんは、大学で学んだ専門性を更に深め、社会に必要とされる専門家になるよう自分たちを鍛えなければならない。また受け身で待っているのではなく、積極的に状況の改善を行う姿勢も大切である。世の中は大嵐であるが、知恵と力を蓄えて、元気よく乗り切って欲しい。

中味の濃い大学生活

環境デザイン学科住環境学専攻 Y. E.

「えっ、もう卒業!？」振り返ってみるとあっという間でした。特に何をした訳でもないけれど、私にとっては中身の濃い、充実した大学生活でした。

この4年間でたくさんの友達、先輩、後輩、先生と出会えたことが私の一番の思い出です。卒業設計は想像以上に大変で、体力と精神力が限界に近くなった時に支えてくれたのが、同じ研究室の友達や先輩、手伝ってくれた後輩たちでした。みんなに助けられて、今日まで過ごすことができました。

私はこの府大の暖かさが大好きです。4年間、しあわせでした。ありがとう!!

バランスを大切に

環境デザイン学科生活デザイン専攻担任 佐藤 仁人
卒業、おめでとうございます。1回生の頃と比べ

ると、洗練された紳士・淑女になりましたね。4年間自らを磨かれた結果であると思います。これからそれぞれの道に進まれるのですが、特に就職する人は環境が激変することでしょう。自分のために投入できた豊かな時間は、自らコントロールすることさえままならなくなります。しかしへこたれないで下さい。どのような仕事も、興味を持って取り組み、必ず面白くなります。自信を持って仕事に取り組んでください。また、大学時代と同様、自分を大切にできる余裕を持ち続けてください。仕事とプライベートのバランスはとても大切です。最後に、卒業してもたまには大学に顔を出してください、待っています。

私の大学生活

環境デザイン学科生活デザイン専攻 S. M.

京都府立大学での4年間はとても充実したものでした。合唱団では演奏会や合宿で苦楽を共にした仲間と、とても有意義な時間を過ごすことができました。演奏会を見に来た友達が感動したと言ってくれたときは、本当にやっていてよかったと感じました。私がミスしたときフォローしてくれたり、冗談を言ったときに叱ってくれる仲間には本当に感謝しています。

学科の愉快的仲間たちともたくさん思い出がありますが、印象に残っているのはやはり設計演習です。提出前は製図室に夜遅くまで残り、友達とあれやこれや相談しながら、眠気と闘いつつ図面や模型を制作したことは一生忘れられない思い出です。府立大に入学して本当によかったと思っています。

旅立ちに向けて

環境情報学科担任 斉藤 学

卒業おめでとうございます。皆さんが入学してから早くも4年の月日が経ちました。とうとう京都府立大学を巣立つ日がやってきましたね。就職し社会の中で活躍していく人も、大学院に進んで更に学問・研究に励む人も、将来への大きな期待に心は満ち溢れていることと思います。その気持ちを大切に、今日を新たな出発日として、新しいことに積極的に挑戦していきましょう。環境情報学科で学んだ皆さんなら、どのような壁にぶつかっても大丈夫です。もしも、ふと不安になってしまった時には（これは誰にでもあることなのですが・・・）その時には、また皆でキャンプに行き夜通し語り合いませんか。

あっという間の4年間

環境情報学科 T. O.

ついに卒業です。あっという間だった4年間を振り返ると、本当に楽しい思い出ばかりです。こんなに楽しく過ごせたのは、理解のある恵まれた環境を作ってくださった先生方、講義のときに私の耳の代わりになってくださったノートテイクの皆様、勉強や実験など快く教えてくださった先輩方、いつも仲良くしてくれた友達、そしてノートテイクの募集からコーディネートまで全て配慮してくださった大学の学務課教務係の皆様のおかげだと思います。この場を借りてお礼を申し上げます。これから先、大学院でたっぷりしごかれるとは思いますが、この4年間の思い出を胸に頑張っていきたいと思います。

卒業されるあなたへ

人間環境科学研究科食環境科学専攻担任 大谷 貴美子

ご卒業おめでとうございます。まずは、ここまで無事に来られたこと、そのための環境づくりをしてくれたご両親・ご家族に感謝しましょう。これからが、本当の意味でのあなたの人生の始まりです。山あり、谷あり。時には、自分にとって不可抗力なできごとに打ちのめされることがあるかも知りません。しかし、どのような時にでも、あなたのことを大切に愛して育ててくれた人、愛している人がいることを忘れないでください。また、自分の内なる心・声に真摯に向き合い、自分で自分を裏切ることなく正面を向いて歩んで行って欲しいと願っています。自分は独りではないこと、大学にもあなたのふるさどがあることを覚えておいてください。あなた自身の未来に向かって。ご健闘を祈っています。

卒業にあたって

人間環境科学研究科食環境科学専攻 H. S.

入学して6年。この6年で、たくさんの人に会いました。たくさんの人から、色々な事を教わりました。そして自分自身、成長することができました。成長することで、また新たに出会いがありました。その出会いから、また新しいことを教わりました。そんな繰り返しの6年でした。

卒業にあたり、この6年間で出会えた人、学べたこと、成長できたこと、自分がその繰り返しの中に入れたことをとても誇りに思います。そして、その繰り返しのサイクルを共有できる親友に出会えたことをとても嬉しく思います。それも京都府立大学にいたからこそだと思います。

最後に、このような経験をさせてくれた両親に、なによりも感謝したいと思います。

卒業される皆様へ

人間環境科学研究科生活環境科学専攻担任 上野 勝代

卒業おめでとうございます！皆さんの修士論文・修士制作の発表をききながら、その堂々たる姿に驚きました。我が専攻は修士修了までに3回、修士論文についてチェックを行います。その時には各教員からかなり厳しい質問が浴びせられますが、それに対する受け応えの訓練の成果ですかね。最終報告会は立派でしたよ。きっと、今はやりとげたことでの喜び、あるいはもう少しこうしかったという悔しさがあるでしょう。

どうか、これらの経験を生かして自信をもって社会に出て行って下さい。そして、どうか京都府立大学を忘れないでください。今年は、私もやっとめでたく府立大学を卒業いたします。また、いつかどこかでお会いする時にはみなさんどうなっているかな？楽しみにしています。

大学院での経験

人間環境科学研究科生活環境科学専攻 A. S.

学部時代を新潟大学工学部で過ごし、大学院の2年間で、ここ京都で過ごしました。

都市計画の研究は、地味で、小さなことを一つ一つ積み上げていく作業の連続でした。今まで、大雑把な性格の私の作業は、小さな穴からふぞろいな穴まで、作ってしまうものでした。

個人指導により、その欠点に、ようやく気づくことができました。その後の研究は、決して、楽ではありませんでした。しかし、その積み重ねの上に、ようやく結論を導き出すことができ、達成感を感じています。最後まで、あきらめずに研究を続けることで、自分自身を成長させることができました。府立大での学生生活の中で、互いに支えあえる同期、ゼミ生に出会い、一生の仲間がさらに増えました。

チャレンジ精神と集中力

人間環境科学研究科環境情報学専攻担任 永田 寛

大学院修了おめでとうございます。これから実社会で理系の大学院の修了生として、まず、チャレンジ精神をもってください。それが今までの自分の専門外であっても、臆することなくいろいろなことにチャレンジしてください。失敗をおそれてはいけません。失敗をとおして多くのことが学べ、幅広い思考力の向上にもつながります。また、集中力をきたえることも重要です。集中力が欠けると物事がうまくいかず、最悪の場合はやる気をなくすかもわかりません。集中力は突然出せるものではなく、訓練が必要です。日頃から集中する力を身につけてください。新しい現象、事象の発見にはとぎすまされた精神力と集中力が力を発揮します。チャレンジ精神と集中力を身につけることは、理系を専門とする諸君が自然科学の発展に貢献をしていくためには、とくに大切なことだと考えます。

感謝をこめて・・・

人間環境科学研究科環境情報学専攻 S.K.

6年間の学生生活を振り返り、関わった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。先生方、私が教師を志すことを決めたのは、先生方に教育に携わる機会を与えて頂き、勉強や就職面で熱心に指導、サポートして頂いたおかげです。先輩方、研究・就職・私生活と多方面でお世話になりました。同回生の皆さん、忘れてほしい思い出もたくさんありますが、みんなとはしゃいだ小豆島旅行は、きっと私の一生の思い出になると思います。クラブのように通いつめた情報研の皆さん、研究生活の中で1番楽しい時間でした。全ての方々のおかげで、学生生活が楽しく、実のあるものになりました。本当にありがとうございました。

農学部・農学研究科

信頼される人

農学部長・農学研究科長 市原 謙一

社会に出て大切なこと、社会人としてとくに大事にしなければならないことは何でしょうか。

私は、信用あるいは信頼感を得ることではないかと思っています。他人に「あの人は信用できる、信頼できる」と思われることは、お金には替えがたい財産になります。しかし、信用・信頼を得ることは一朝一夕にはできません。やはり、誠実さの積み重ねがなくてはなりません。

みなさんには、まずは身体的・精神的に健康で、そして京都府立大学の卒業生・修了生らしく、地味であっても明朗・誠実で信頼される社会人として活躍されることを期待しています。

皆さんの植えた木が二酸化炭素を！

農学部附属演習林長 高原 光

ご卒業おめでとうございます。多くの皆さんが、演習林で様々な体験をされたことと思います。学生の力で、大学の森の枝打ちや間伐などの保育がずいぶん進みました。皆さんの積極的な森林への取り組

みに、こころから感謝しています。これからの社会は、20世紀とは違い、地球的規模での環境問題が社会の発展を左右する世の中です。地球温暖化が現実のものとなった時期に、多くのことを大学で学ばれた皆さんは、今後の人類の生存を大きく左右する世代でもあると思います。これから社会で、様々な経験を積んで行かれることと思いますが、皆さんの成長と共に、皆さんが保育してくれた演習林の木々も二酸化炭素を吸収して年々成長していること、たまには、思い出してください。このように一人一人の力が、地球環境を左右することを……！

読書のすすめ

農学部附属農場長 藤目 幸擴

卒業並びに修了おめでとう。私も皆さんと同じときに大学を出ます。4月からは自分の好きなときに、好きな本を読めるかと思うと今から楽しみです。しかし、皆さんの世代は本だけでなく、インターネット、TV、ビデオなど、情報収集の媒体は豊富になりました。しかし、本に含まれる情報量はそれらに比べはるかに膨大です。また古典と呼ばれる本の情報は他の媒体に比べ、未来の指針ともなる先人の英知に

満ちています。今年の祇園での新年会で、舞妓さんと話す機会がありましたが、多忙なお稽古とお座敷の中で本もよく読んでいると聞き驚きました。皆さんにも、卒業後もぜひ読書の習慣を続けて欲しいと思います。

食料の安全保障

生物生産科学科担任 牛田 一成

生物生産科学科は、食品関係の企業や農業関連の公務員に就職を希望する人が多い学科です。ですから、一連の食品安全性の問題は皆さんも関心が高いことでしょう。食品産業と農林水産業、お互いに利害が一致する場合も一致しない場合もあります。しかし、消費者の動向にそわない限り、どのような商売も成り立たないのは自明のことです。一次産品の国際市場における価格の高騰のために、不況下にもかかわらず食品の値上げが続くでしょう。高くても安全は当たり前ですが、安さと安全が両立しないと国民の生活は保障されません。皆さんの希望する進路は、それに応える使命を帯びています。大変難しいことだと予想できますが、その使命に応えるべく研鑽を積むようにお願いします。

See You Again!!

生物生産科学科 A. Y.

1回生の学科合宿で「これからの自分は今までの自分とは違う、変身する」ということを言っていた人がいましたが、私も自分にはないものを持った友達や仲間たちと切磋琢磨し、経験豊かでとても優しい個性的な先生方に支えられて大変身したように思います。この4年間、友達や仲間、先生方には大変お世話になり、本当にありがとうございました。まだまだ失敗すること、挫折することもあります。もらった言葉と応援を胸に、これからも様々なことに挑戦していこうと思います。

これから先、迎える道は様々ですが、大学生活で得た絆を大事に、これからも時々近況を報告したりしたいです。だから最後の言葉は別れの言葉ではなく、再会の約束の言葉でしめたいと思います。「また会おう！」

ご活躍を祈っています

森林科学科担任 高原 光

森林科学科の卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。皆さんが入学されてから、あっという間に4年がたちました。この短い期間に、皆さんは、専門分野における勉学だけでなく、社会や友人と関係のなかで、ますます成長され、社会人として、旅立たれることをたいへん嬉しく思います。大学で学んだ専門知識や技術と人との繋がりは、これからの人生にとって、かけがえのない財産だと思います。これらを活かして、皆さんの未来を切り開いてほしいと思います。常に、一歩先のチャレンジを試してください。また、困難なときには、うまくいく時が来ると・・・、あせらない。順調なときには、足元を見直して・・・という気持ちで・・・堅実に。そして常に先を見る目を持ってください。皆さんのご活躍を祈っております。

卒業にあたって

森林科学科 A. H.

本学で学ぶ為に京都に来て4年、勉学はもとより、勉学以外で得たものも沢山あった。今春卒業するに至り、学生生活を通して得た全てのものが、かけがえのない財産であるように思える。自己責任で決断する場面が増えた。しかし、ある程度無責任が許される曖昧な立場に、時に助けられ、時に辛い思いをした。考えてみれば、曖昧な立場にいたからこそ、多方面から実りを得られたのではないかと思う。様々な分野で得たものが私の引き出しの中に納まり、あるいは引き出しそのものになった。それは本学で学ぶ立場にあったからこそ得られたもので、今はただ感謝の気持ちしか浮かばない。4年間、本当にありがとうございました。

心残り

生物資源化学科担任 市原 謙一

大学生活に満足して卒業する人、まだ心残りがある人、不満を持って卒業せざるを得ない人、みなさんはどういう気持ちで卒業してゆくでしょうか。

生物資源化学科が農芸化学科と言っていた昭和30年代に卒業した、みなさんから見れば大先輩にあたる人が、「自分は大学時代は勉強をしなかった、その後悔の念がずっと続いていた、そして永年勤めた会社を定年退職したいま勉強している」と言ってい

ました。もし、みなさんの中に自分自身の大学での勉強に不満・心残りのある人は、その気持ちをずっと持ちつづけてほしい。それは、きっとみなさん自身はもちろんのこと、家族や周りの人を刺激するはずです。

卒業、おめでとう。

大学で得た自称最強の切り札

生物資源化学科 T. M.

「どうすんの、オレ？」この自問の4年間だったと振り返る。出来なかったことに対し原因を探し、何をすべきかを考える。自分のおかれた状況で最もベストな挙動はなにか。これが最もいきたのは部活動においてであった。土俵は違えど私が今取り組んでいる研究にもこの経験は大きくいかされている。その時々ケースに対し、自分の持ちうるベストなライフカードを選ぶ。困難にぶつかるたび手札は増えた。次第に自分が何をやるべきかが見えてきた。卒業後私は大学院に進学するが、この自問は繰り返されさらに手札は洗練されるだろう。来る就職活動で私は自信をもってカードを切る。そのカードは雄弁な名刺代わりになるに違いない。

新しい社会への飛翔

農学研究科生物生産環境学専攻担任 松村 和樹

修了（卒業）おめでとうございます。これから羽ばたき社会へ出て行かれる修了生、卒業生に饒の言葉を送ります。

私の会社人時代の経験において、大学時代に優秀であった人間が社会で優秀とは限らないことが多々ありました。このことはとりもなおさず、これまで低空飛行で何とか単位をそろえた人にも大きなチャンスが与えられるということです。このチャンスを生かさない手はありません。社会が必要としている人材は「自分で考え、自分の言葉で表現できる者」です。これからは知識を覚えるのではなく、考え方を学ぶことが重要です。仕事上ではカンニングは認められています。最後に「性格・やる気・体力」の言葉を贈ります。

皆様への感謝の気持ち

農学研究科生物生産環境学専攻 Y. H.

大学院から府大に入学し、しかも学部の時とは全

く別の専門分野に進んだ私を、先生をはじめ府大の皆さんは本当に温かく迎えて下さいました。研究を進めるにあたって、先生方には懇切丁寧なご指導をいただき、多くの学生の方々には暑い夏の日から寒い冬の日まで大変な調査に協力して下さいました。特に思い出深いのは、夏の調査合宿です。皆様と共に汗を流した日の夜、初めて美味しいと感じたビールは一生忘れません。皆様の多大なご協力に心から感謝すると共に、研究は決して一人だけの力で出来るものではないのだと痛感した2年間でした。私が無事修了出来るのも、ここまで支えて下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

不景気

農学研究科生物機能学専攻担任 牛田 一成

ついこの間までは景気も好転し、とくに団塊世代の退職で人手不足に陥った企業の採用意欲も強くて、バブル崩壊期と比べると好転した就職状況でした。就職される修了生の皆さんは、思いの外に楽な就職活動だったのではないのでしょうか。ところが、ここに来て景気の先行きが怪しくなってきました。実需そのものと株式から逃げ出した投機資金によって一次産品が値上がり続ける中で、企業は再度のコストダウンとリストラの波に洗われるとの予想が出ています。実社会に出て1年目からいきなり厳しい社会情勢に遭遇するのです。楽だった就活とは異なり、今後は実社会で生き残るために戦っていかないといけないわけですから、是非、気を引き締めてがんばってください。

府立大での6年間

農学研究科生物機能学専攻 T. T.

私は学部の4年間は部活に明け暮れ、勉強も実験もしっかりせずにいました。そんな私でしたが、先生方や先輩方から様々なご指導をいただいたこともあって、大学院に進学してからはいくつかの研究学会や学会に参加、発表といった経験を積ませていただきました。おかげで無事就職も決まり、この2年ではいづらか成長することができたのではないかと思います。

この6年間を振り返ると、恩師、先輩、同期、後輩など人との出会いに本当に恵まれたと思います。

師匠とも言える先輩や生涯の友になるであろう友人にも多く出会いました。ここでの出会いがなければ

今の自分はありません。府立大に入学して本当によかった。6年間ありがとうございました。

博士學位取得者からのメッセージ

卒業を迎えて

人間環境科学研究科生活環境科学専攻 K. K.

人生は1回切り、一足の草鞋だけでは擦り切れちゃうから、二足の草鞋を履いてみよう！…社会に出て10年経ち、自らのスキルアップを鑑みたとき、私は社会人と学生の二足の草鞋を躊躇無く選択しました。この3年間は先生方や

学友に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。でも両立は大変。なんと挫折しそうになったことが…。スキルアップの結果として学位修得がつかないと言いますが、意識レベルでさえ目的が摩り替わっていることも。でも学位修得はゴールにあらず、これからが大切。習得後も取り上げたテーマをBrush upしていくと同時に、今は向こう10年がっぷり四つに組める新しいテーマの模索を始めています。

退職教員からのメッセージ

隣人として

文学部文学科西洋文学専攻 加藤 丈雄

雨の言葉

雨の言葉が
私に氾濫する

滴しずくによって吸い上げられ
雲の中に押し上げられ
私は雨となって
開いた
真まっ赤あかな
罌粟けしの口もとに降る

(Regenwörter)

昨年末にローゼ・アウスレンダー詩集『雨の言葉』を翻訳し思潮社より上梓した。上はその詩集のタイトルとなっている作品。

ここで詩人は自然のひとこまを描写しながら、言葉に対する根源的な衝動をうたっている（それは肉感的ですらある）。「雨の言葉」とは、私たちが日々ぞんざいに使い古している日常語の対極にあるもの、詩人の内面にふつつつと沸き上がってくる生まれたての言葉のことをいうのだろう。

地上に降り注ぎ、塵芥ちりあかにまみれても雨は決して淀み死んだままではない。地中をくぐり、濾過され、

陽のぬくもりを受けて気化し、やがては清浄無垢な滴となって再び雲のなかに戻っていく。

言葉というものもまた姿を変えて還流する。いかに酷使され虐待されようとも、それはいつしか私たちの内面のなかで濾過され、他者との交流に委ねられて気化し、再び濁りのない滴となる。

しかし、ここで注目すべきは、そのような自己表現の抑えがたい欲求が、拡散するとともに、また何らかの核を得て雨滴となり、再び地上におりてくるという点である。雨と化した「言葉」＝「私」は「開いた／真まっ赤あかな／罌粟けしの口もとに降る」という。地上に降るだけではない。ヨーロッパの畑なら、どの畦道にでも見受けられる野草、「真まっ赤あかな／罌粟けし」の「口もと」に降るのだという。使い古されてはいない独自の言葉を追い求める詩人の到達する先は、どこにでもある隣人の口もとに他ならない。しかもこれはナチに蹂躪されたユダヤ系詩人の言葉なのである。こんなさりげない作品に私はことのほか大きな慰めと励ましを与えられる。

――府立大学には15年お世話になった。その間少しでも上のような〈言葉〉に耳を傾ける者でありえたか（その発話者とはなれなくとも）。思い残すことは多い。今後は大谷大学という隣人の立場から、府立大学の「雨の言葉」にうるおされたいと願う。

府大は私の人生

福祉社会学部福祉社会学科 宮嶋 邦明

本学に併設されていた女子短期大学部に教育心理学担当の講師として採用されたのは1973年（昭和48年）、28歳のときだった。以来、女子短期大学部に25年、そして新設の福祉社会学部に11年、あわせて35年（※）を本学で過ごした。文字通り、本学は私の人生そのものだったといえる。

あの「桂女専」（京都府立女子専門学校）の伝統を受け継ぐ本学に就職が決まったとき、私はとても嬉しかった。嬉々として本学に足を運び、思う存分の大学生活を重ねた。そしていつしか本学は私の身体の一部となった。出張などから帰ると、真っ先に研究室に戻った。本学キャンパスは、他のどこよりも心安らぐ場所だった。市街地にあって比叡を臨み、閑静で、緑と土が一杯、こんな好環境の大学が他にどこにあらう。良き学生、良き同僚や友人に囲まれ、本学での大学生活を全うできた今、私は幸せ者だったと、しみじみ思う。

もちろん長い大学生活の中で、辛く苦しい思いをしたことも多くあった。特に短大の閉学は脳裏から消え去ることはない。私はそのとき短大部長を命じられた。短大の「有終の美」を飾ること、これが私に課せられた使命だったが、同窓生の悲痛の叫びに私の心は何度も震えた。キャンパス中央、4号館前に建立された記念碑は本学の歴史を語るとともに、本学の発展を見守っている。

文学部社会福祉学科及び短大の教員や新任の教員を加えて新設された福祉社会学部、私もその一員として新しい学部づくりに参加できたのは、これ以上の幸せはないと思うほど、楽しくやりがいのある仕事だった。皆の心が1つになったこの11年間は、私にとって最高の贈り物だったと、今は思う。また夢にまでみた卒論指導や院生指導、これを可能にしてくれた多くの同僚、そして学生、院生に心からの感謝の意を表したい。福祉社会学部はこの4月より装いを新たにすが、人々の「幸せ」に貢献しようとする「福祉マインド」は揺るぐことなく継承されねばならない。

本学の新しい出発を目前にして、私は本学を去る。本学が良き大学であり続けることを願い、またそれが本学の使命であると確信し、別れの言葉とする。

※宮嶋先生は、平成9年4月から平成10年3月までの1年間、女子短期大学部長を兼務されていました。

これからも「食」の力を信じていきます

人間環境学部食保健学科 市川 寛

7年前の12月のことです。今は廃院になってしまいましたが、京都府立洛東病院に勤めていた私に、京都府立医科大学のボスである吉川敏一教授から突然電話がありました。「市川。もうそろそろ臨床するのに飽きてきたやろ。1年後に府立大学に行く話があるんやが、どや。今すぐイエスと言え！」

京都府北部の病院にとばされることくらい何とも思わない私でも、臨床を離れるとなるとさすがに即答はできず、「返事は明日にさせてください」とお願いしました。結局は何もわからないままに、翌日「はい」と言ってしまったことを覚えています。

こうやって私がお世話になったのが人間環境学部の食保健学科です。栄養学など医学部では教えてもらった記憶がなかったので、はじめはとまどうことばかりでした。でも、多くの先生方にお世話になりながら、また、管理栄養士を養成するという仕事を通して様々なことを教わったように思います。

特に印象的だったのが、私の第2のボスである退官された中坊教授の一言。

「栄養士は、“師”ではなく、“士”であることに大きな意味がある。」

「医師が一生のうちに診られる患者はほんの少しに限られているが、栄養士は“食”を通して何百万何千万人もの人々を救うことができる。」

謙虚な気持ちを持ちつつも、崇高な目的を持ちながら栄養士として世の中に貢献せよ、という意味のお言葉ですが、この時は私も一医師としてとても身の引き締まる思いをしたものでした。

わずか6年間という短い期間で、途中で投げ出す様な形になりましたが、これからも「食」の持つ潜在的な力を信じて、仕事を続けていきたいと思っています。「シックケア」に命をかけるだけの医師ではなく、「ヘルスケア」のスペシャリストにもなって、またいつか新生、「京都府立大学」のお力になればと願っています。

お世話になりました

人間環境学部環境デザイン学科住環境学専攻 上野 勝代

私が京都府立大学を初めて訪れたのは、奈良女子大学の院生時代に東修三先生の講義の一環として、先生の研究室に伺った時でした。そして、緊張のあまり出されたお茶を2度までこぼしてしまい、早くその場から逃げ出したいという想いが残っております。3年半後、思いがけず、府立大学に助手として採用されました。

それから37年間、〈共働き家庭の生活環境〉〈住宅の消費者問題〉〈居住権〉〈女性の視点とまちづくり〉〈コ・ハウジング〉〈高齢者のグループ・リビング〉〈DV被害者のためのシェルター空間〉に関わって研究を続けてきました。振り返りますと、自分が経験し、悩み、直面した生活に関係する部分を展開してきたと言うことができます。生活科学は問題解決を指向し、当面の問題から目をそらさないことを大事にする学問と言えます。私にとって、個人生活の日常場面で直面せざるをえない家事や育児・介護といった現場経験の時間が即研究の芽、ヒント、発想を与えてくれました。しかし、生活の現場におりさえすればわかるというものではないでしょう。どっぴりとつかっているが故に見えない場合もあります。まちづくりでよく聞く言葉〈土の人〉と〈風の人〉の両方の視点が研究者には必要だと考えます。

そして、私にとって、外側から自分の立ち位置を見る〈風の人〉の視点を養うことができたのは、人間にふさわしい住居を基本的人権として認識し、研究者だけではなく市民にも開かれた学際的な研究組織である日本住宅会議と北欧での在外研究のお蔭です。住宅会議には、住宅問題で悩む住民との議論の場があり、学会や行政の審議会ではなかなか聞けない生の声や願いが聞けます。まさに、私にとっては学びの場でもありました。ノルウェーを中心とした北欧での在外研究はその後の研究に大きな転機を与えました。

最後に、そうした機会を与えていただいた京都府立大学の教職員の皆様、卒業生の皆様、ゼミの皆様にお礼を申し上げます。

私にとっての府立大学の意味

人間環境学部環境デザイン学科住環境学専攻 竹山 清明

私は建築や住宅の設計を専門とする建築家がメインの仕事である。府立大学では、学生に住宅・建築の設計を教えるとともに、質の高い住宅・建築の設計のあり方を研究し、そしてそれを社会的実践に生

かすというスタイルで活動してきた。府立大学における周囲の研究プロパーの教員の多くは、研究業績を上げるために研究するというスタンスが基本であり、私のスタンスとはかなり異なる。その意味で、府立大学にいること自体に幾分の違和感があったのは事実である。

しかし実は、府立大学に在職して意味があったことも、この幾分の違和感に関連している。論文による研究業績評価が基本の環境において、私自身も住宅や建築を創造することに加え、研究を深めることが不可欠な状況となった。

これまで、安藤忠雄などに代表される現代の建築の創り方に大いに疑問を持っており、それとは異なる本来の建築や住宅のあり方の考察や探求は行ってきた。様々な建築関連の出版物に、それに関連する論考を記してきた。しかし一貫して掘り下げて研究することはできていなかった。そこで府立大学での研究が不可欠の状況を活用し、年来の懸案であった「社会と関わった本来あるべき住宅や建築のあり方・創造の方向性」について、研究を深める取り組みを行った。これまでの哲学的・美学的傾向に偏った建築論研究とは大きく異なる、生活者の好みや要求の探求を基本とした市民の立場に立った研究を行った。そして私個人としては、満足の行く成果を上げることができたと思っている。

その成果を出版して世に問うこと、またその研究を元にして住宅・建築の実践を行い、そのような動きを広めていくことが、今後の私の課題である。

定年退職を迎えて

農学研究科生物生産環境学専攻 藤目 幸擴

香川大学から京都府立大学に移ったのは平成11年4月で、それ以来9年間京都府立大学にお世話になりました。しかし、本学との関係はそれ以前からあり、平成6年から大学院の非常勤講師を務めていました。国立大学から公立大学に移り、いろいろな戸惑いがありました。

その1は、大講座制の組織から講座制な組織に移ったことでした。大講座制では教員全員が一人1講座の体制でいますが、本学ではまだ講座制の建前で運営されていましたものの、内実は講座制が実情にそぐわなくなっていました。

その2はカントリーボーイ、カントリーガールだった学生が、シティーボーイ、シティーガールに変わったことでした。スマートでそつなくなりましたが、

何か農学に求める迫りに欠けるようでした。講義もノート講義では効果がなく、教科書を使う必要が起こり、そのため自分で教科書づくりに取り組むことになりました。

その3は産地からの距離が遠くなったことで、現場からの緊迫した状況が届かず、ぬるま湯状態になったことでした。

しかし、幸いにも講座のスタッフに支えられてい

たことで、自分の研究の最後の取りまとめに取り掛かることができました。まだ道半ばですが、長年のライフワークであったカリフラワー・ブロッコリーの絵本を含め3冊の本を書き上げることができました。

本学では、学部・研究科並びに附属農場の教職員など多くの方々のお世話になりました。ここに深く感謝すると共に、本学のますますの発展を祈念いたします。

人間環境学部食保健学科の松原周信先生が退官されます。長年の間、学生の教育や研究などの発展に御尽力いただき、本当にありがとうございました。

■後援会理事長・同窓会長からのメッセージ

卒業生へ贈る言葉

後援会理事長 石垣 博章

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業という一つのゴール地点に立ったということは、新たなスタート地点に立っているということに他なりません。日々の活動の場が大学から別の場所が変わっても、高い志と情熱を持って若者らしく突き進んでいてもらいたいと思っております。皆さんが素晴らしい環境と、素朴で真面目な学風を感じる京都府立大学で学ばれたことを、後援会の会員も誇りに思っております。卒業生の皆さんも、京都府立大学で学生生活を過ごされたことを、本当に良かったとしみじみと感じられていることだと思います。これからも人に優しく、当たり前なのが当たり前出来る立派な大人になっていていただきたいと切に願う次第です。

いま大切なこと、将来は…

同窓会長 浦上 弘幸

ご卒業、おめでとうございます。皆さんは、京都府立大学で学び、色々な知識と技術を習得するだけでなく、学生生活を通じて貴重な体験もされました。この長年に亘って身に付けられた知識・技術・体験を駆使して、大いに社会に貢献し羽ばたいていただきたいと思っております。そして、さすがに京都府立大学の卒業生は、単に物を知っているだけでも技術を使えるだけでもなく、分析能力や応用力、さらには洞察力にもすぐれており、採用してよかった、素晴らしいと言ってもらえることを期待しています。私はどのような職種になろうとも、目先のことも大切ですが、将来をある程度見通せる能力も培っておくことが大切だと思っています。また、普通はついつい自己中心になり、視野が狭くなりがちですが、グローバル時代といわれている今日、ぜひ広い視野に立って将来を展望していただきたいものです。少し前に流行ったSMAPの歌でも、「No.1にならなくてもいい、もっともっと特別なOnly one」という歌詞があるように、一番にならなくてもいい、一番を目指すのではなく、あなたが頼り、あなたしか出来ないと言ってもらえるような人になっていただきたいと思っております。

そして、卒業後はぜひ同窓会にもご理解をいただきご協力とご支援をお願い致します。

最後になりましたが、卒業生皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りしております。

■西安交換教員・派遣院生からのメッセージ

期待

文学部文学科国文学・中国文学専攻 曲 永紅

西安外国語大学と京都府立大学の教員交換が始まってから、もう26年ぐらになるでしょう。初めて西安にいらした府立大の先生は文学部の松村昂先生でした。そのとき、私は教師になったばかりで（そういったら、もう年がわかるわね）、週に1回くらい開かれた先生の若い教師向けの講座に必ず出て、たいへん勉強になりました。いまでも講座の時の様子を覚えています。その次にいらした先生は当時文学部におられた井口和起先生でした。先生は娘のかおるちゃんといっしょに西安に来ておられました。よくかおるちゃんといっしょに遊んでいたことも覚えていています。ですから、府立大は私にとって、憧れの学校で、いつか私も行けたらとずっと思っていました。

去年の4月にやっと願いがかない、府立大に来ました。学校は小さく、建物が少なく、学生数が少なく、いまの西安外大とはとてもスケールが違うというのが府立大に対する最初の印象でした。でも、2000人ぐらいの在校生のなかで中国語を習う学生の数が多いことにびっくりしました。それに、小さい学校の中にある四季折々の風景、桜、楠木、紅葉、銀杏の木などの美しさ、研究室、教室の設備などに感心し、全部写真に収めてしまいました。それらは私にとって、一生の思い出になるでしょう。

去年の夏休みになる前に、夏休みの短期留学を学生に薦めたらどうかと文学部の小松先生に言われたので、薦めたところ、なんと17名も応募してくれました。2週間の留学で、言葉だけでなく、中国に対する理解も少しは深まったのではないのでしょうか。外国語を習うには、その国の文化を理解することもとても大切だと私は思いますが、学生の皆さんには、ぜひ習った中国語を生かして、もっともっと中国に対する理解を深めてくれることができるようにと願っています。

今後、西安外大と府立大の交流はますます進んでいくでしょう。教師の交流だけでなく、院生、学部生の交流もできるように、ささやかな力ではありますが、尽くしたいと思っています。いつか、府立大のどなたかを迎えることを心からお待ちしています。

外国語を学ぶ

西安外国語大学派遣院生 H. D.

私は去年の9月から西安外国語大学で日本語を教えています。日本語や日本について新たに気付かされることも多いですが、中国語学習者としても勉強の毎日です。日常生活の中で、つたない中国語とポディーランゲージで、自分の意思が相手に伝わったときは大変うれしいものです。自分の学んだ言葉が、ネイティブに通じたということは、大きな自信となり、その喜びは更なる学習意欲につながります。もし、何か興味のある言語があるなら、日本でネイティブ相手に練習するのもいいですが、まずは海外に出かけてみることをお勧めします。ほんの短期間の旅行であっても、ちょっとした現地の人との交流から、もっと自分の考えを伝えたい、相手の考えを理解したいという気持ちがわいてきて、大きな変化があると思います。

私の働いている西安は、決して日本人の多い場所ではありません。そんな西安で、日本語を学ぶ学生に、私との会話から、少しでもこのような喜びを感じてもらえたら、と考えています。

■桜楓講座（春の部）の参加者募集

どなたでも参加できる公開講座です

最近のトピックを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。春の部は文学部と生命環境科学研究科から2講座で開催。応募は5月2日（金）までにe-mail、FAX、往復ハガキいずれかで参加コース・お名前・御住所をお知らせください。詳しくはホームページでもご覧いただけます。（管理課：電話 075-703-5102 FAX 075-703-5149 e-mail:kikacho@kpu.ac.jp

Aコース 5/10（土）「近世京都の女流書家」 講師：文学部教授 母利 司朗

Bコース 5/24（土）「4億年前から続く「共生」を考える」 講師：生命環境科学研究科教授 石井 孝昭

●話題の研究:京野菜のがん予防成分を研究

～人間環境学部食保健学科 中村考志准教授が日本環境変異原学会奨励賞を受賞～

「京野菜に含まれる抗変異原の同定とその作用機構」という受賞題目で中村考志准教授は平成19年11月30日に日本環境変異原学会の奨励賞を受賞されました。先生の受賞を心から祝福いたします。中村先生は平成8年4月に本学へ助手として着任した時に、「京都府の大学に就職したので京都の産物についての研究を行い、京都府民に成果を還元したい」と話していました。そのことが、ついこの前の様に思えます。あれからもう十年以上が経ち月日の流れる早さに驚いています。その間、京野菜の伏見トウガラシ、賀茂ナス、桂ウリ、桃山ダイコン等が、普及種に比べ発がん抑制作用や、がん化した細胞を正常化する可能性があることを見だし、さらにそれらの作用を持つ成分を分離同定されています。特に桃山ダイコンの辛み成分(4-methylthio-3-butenyl isothiocyanate)は、動物実験でも膵臓に対する化学発がんを抑制し、大きな話題となっています。先生は、国立医薬品食品衛生研究所・奈良県立医科大学・米国ミシガン州立大学などの共同研究も積極的に行われ、先生の所属される食品科学研究室に新しい技術と考え方を導入していただいています。これらの成果を基に、辛みや渋みをなくすような改良を受けてきた普及種野菜には、本来野菜が持っていた有益な作用が少なくなっているが、生産者と消費者の両方の努力で守られてきた京野菜には有益な成分が保存されているという考えを提唱されています。単に成分の分離にとどまらないスケールの大きな研究であると思います。高齢社会を迎えた我が国では、がんをはじめとした生活習慣病の食を通した予防がますます重要になっています。先生の研究のますますの発展を期待しています。

(人間環境学部食保健学科教授 佐藤健司)

●府大教員の出版物紹介

府大の教員が執筆した書籍の一部をご紹介します。文学・歴史からまちづくり、農学まで、府立大学では多彩な研究が展開されていることがお分かりいただけるのではないのでしょうか。

ここではご紹介できませんでしたが、他にも多数出版されています。(大学ホームページの「教員データベース」でご覧いただけます。http://www2.kpu.ac.jp/shomuka/gakujyutsu/database_index.html)

●書名
戦争の日本史21総力戦とデモクラシー
(2008年1月吉川弘文館)

●著者名
文学部准教授 **小林啓治**

●書名
雨の言葉—ローゼ・アウスレンダー詩集
(2007年12月思潮社)

●訳者名
文学部准教授 **加藤丈雄**

●書名
幻想の自治体財政改革
(2007年9月日本経済評論社)
※この書籍は本学の平成19年度研究成果公表(出版図書)支援事業に採択されています。

●著者名
福祉社会学部教授 **川瀬光義**

●書名
中心市街地の創造力
(2007年12月学芸出版社)

●著者名
人間環境学部准教授
宗田好史

●書名
桃山・江戸のファッションリーダー
—描かれた流行の変遷
(2007年10月塙書房)

●著者名
人間環境学部准教授
森理恵

●書名
ブロッコリー・カリフラワーの絵本 そだてて遊ぼう75
(2007年3月農山漁村文化協会)

●著者名
農学研究科教授
藤目幸擴

新生『京都府立大学』がスタートします

府立大学は、4月から京都府立医科大学とともに、京都府公立大学法人のもとで、新たにスタートします。

公立大学法人は、自主性・自律性と創意工夫により大学の運営を進めることとなりますが、その基本となるのが「中期目標」・「中期計画」です。

中期目標は、知事（法人設立団体の長）が、今後の6年間における法人の教育・研究の充実・強化、地域貢献の拡充、組織・運営体制の強化について定めるもので、現在、府立大学も一緒になって検討が進められています。

「中期計画」は、公立大学法人が中期目標で示された目標を達成するため教育・研究等の質の向上、研究の推進、地域社会との連携強化など、具体的な取り組みを計画として定めるものです。

今後も教育・研究・学术交流の成果を高めるとともに、産学公連携・地域貢献にも積極的に取り組むなどさらなる充実・発展を目指していきます。

京都府立大学公共政策学部・ 研究科開設記念シンポジウムを開催しました!

山田啓二 京都府知事を講師に迎えて、1月28日、大学会館において、京都府立大学公共政策学部・研究科開設記念シンポジウム「地域が活きる分権型社会の構築に向けて」を開催しました。

山田知事からは、「地域力再生と大学の役割」と題して、「これからの日本を考えると、住民自治組織、NPO、大学、企業など、地域の様々な主体と行政とが、協働で課題を解決する『水平型ガバナンス』が必要である。大学も『水平型ガバナンス』の担い手の一つであり、新たに誕生する公共政策学部・研究科も地域を再生するため、その一翼を担ってほしい。」と講演されて、新しい府立大学への期待を語られました。

続いて、「地域力再生と『公共』政策」をテーマに、小沢修司福祉社会学部長をコーディネータとし、井上正嗣 宮津市長や深尾昌峰 きょうとNPOセンター常務理事、4月に公共政策学部に着任予定の窪田好男 神戸学院大学准教授（政策評価）、佐野巨 人間環境大学准教授（政治学）及び本学の川瀬光義教授（地方財政論）によるパネルディスカッションが行われ、自治体・NPO・企業等との協働や連携の必要性についてそれぞれの立場からの提案などが行われました。

■4月から事務組織も変わります

府立大学 管理課 総務担当、経理担当、施設管理担当、企画担当
学務課 教務担当、入試担当、学生担当
附属図書館

組織改正のポイント

☆学部事務と学務課教務係を一体化させることにより、大学院も含めた教務の体制を強化します。

☆府立大学の発展に重要な地域・産学公連携、広報、情報、国際交流、評価などを担当する参事・企画担当を設置します。

☆庶務課と会計課が管理課となり、大学の管理部門を一体化します。

博士学位取得者一覧

■課程博士

【人間環境科学研究科 生活環境科学専攻】

- ・奥野 修 (分譲・リースマンションの所有者像と経営実態に関する研究 ―京都市都心部のケース―)
- ・勝川 健三 (都市緑化における球根植物の利用に関する研究)
- ・西尾幸一郎 (在宅知的障害者のための住宅改善や暮らし方の工夫に関する研究)

【人間環境科学研究科 環境情報学専攻】

- ・野村 裕也 (植物の細胞内カルシウムシグナリングにおける葉緑体の役割に関する研究)

【農学研究科 生物生産環境学専攻】

- ・河野樹一郎 (植物珪酸体分析を用いた森林植生の復元に関する研究)
- ・Pichitra KAEWSORN (Studies on Flower Bud Formation and Seed Formation of Water Convolvulus (*Ipomoea aquatica* Forssk.)(ヨウサイの花芽形成並びに種子形成に関する研究))
- ・Pornpairin RUNGCHAROENTHONG (Studies on Head and Flower Bud Formation of Brussels Sprouts(*Brassica oleracea* var.*gemmifera*).(メキャベツの球形形成と花芽形成に関する研究))

【農学研究科 生物機能学専攻】

- ・王 悦 (Destabilization in Mechanical Properties of Wood Caused by Rapid Temperature Changes and the Relevant Mechanism (急激な温度変化に起因する木材の力学的性質の不安定化とその機構解明))
- ・神代 圭輔 (Changes in Physical Properties and Microstructure Caused by Destabilization of Wood (木材の不安定化にともなう各種物性と微細構造の変化))
- ・高橋 俊輔 (The effect of oral administration of *Lactobacillus plantarum* strain Lq80 on post weaning piglets, and its possibility for probiotic use(離乳期仔ブタへの *Lactobacillus plantarum* Lq80 株の経口投与効果とプロバイオティックとしての利用の可能性))
- ・友杉 充宏 (Biosynthesis of castor oil: a role of polyamines in the formation of ricinoleoyl glycerides (ヒマシ油の生合成：リシノール酸グリセリド生成におけるポリアミンの役割))
- ・中谷 丈史 (木材主要構成成分の各種有機液体に対する吸着性と空隙構造)
- ・湯井 聡子 (Studies on Biphasic Action of Bile Acids in Human Colon Cancer HCT116 Cells ―Apoptosis and Cytoprotection by Bile Acids―(ヒト大腸がん細胞HCT116における胆汁酸の二方向性作用に関する研究―アポトーシス誘導と細胞保護効果―))

■論文博士

【人間環境科学研究科】

- ・富田 圭子 (食事共食観を向上させるための親子関係と色彩環境に関する研究)
- ・西本 真紀 (異なる器官由来の魚類コラーゲンの比較生化学的研究)
- ・森 理恵 (近現代日本の規範的女性像と女性の主体的創作活動に関する研究)

【農学研究科】

- ・城野 浩之 (Subtype composition in natural leukocyte interferon-alpha and high efficient production utilizing transgenic rice callus.(天然型白血球インターフェロンαの亜種組成とイネカルスを利用した組み換えインターフェロンαの効率的生産))

イベント情報 ……今後開催の公開講座など

- ・新「文学部」発足記念シンポジウム「ことばと異文化」
～ロバート・キャンベル先生を迎えて～
4月27日(日) ハートピア京都(中京区)
- ・古典グルメ・書物グルメのための名品展
～京都府立総合資料館で「古典籍を味わう」～
5月10日(土)～25日(日) 京都府立総合資料館(左京区)
- ・古典グルメ・書物グルメのディスカッション
～京都府立総合資料館で「古典籍を味わう」～
5月18日(日) 京都府立総合資料館(左京区)

※詳しくは大学までお問い合わせください